カトリック
# 広島教区報

No. 119
カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区幟町4-42
広島司教館内
TEL（082）221-6017

## 「社会へのチャレンジ」
## ―教皇フランシスコの訪日を受けて被爆七十五周年へ

広島教区長　アレキシオ　白浜　満　司教

**主の降誕と初春のお喜びを申し上げ、神様の祝福をお祈りいたします。**

昨年、皆さんからお寄せいただいた数々のご厚情に対し、心より御礼申しあげます。司祭団、修道者、信徒の皆さんの祈り、奉仕、献金などに示される温かいご支援なしに、委ねられた重責を十分に果たしていくことができません。今年も、皆さんのご協力によって支えていただきたいと思います。また、皆さんには、わたしの弱さや力不足のために、色々なご迷惑をおかけしています。皆さんに改めてお詫びし、ゆるしをお願いたいと思います。

白浜満司教と教皇フランシスコ（平和記念公園）

昨年には、教皇フランシスコの訪日・広島訪問という歴史的な出来事がありました。この神様からの大きな恵みを、「一過性のイベント」に終わらせることがないよう、皆さんと一緒にチャレンジ精神をもって、世界の平和のために活かしていきたいと思います。

「すべてのいのちを守るため」というテーマでおこなわれた教皇の訪日を受けて、日本の教会として、今後、どのような取り組みができるのかについて、昨年十二月十二日～十三日に開催された臨時司教総会で検討しました。短い日程の臨時総会でしたので、優先的に二つのことだけを決定して実行することにしました。

### ①「核兵器禁止条約」への署名と批准を日本政府に要請する

教皇フランシスコは、被爆地（長崎・広島）を訪問して、核兵器廃絶を訴える

司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き　一～三面
教皇来日行事　四～十二面
召命学校・J―CaRM　十三面
地区・海峡からの風・一粒会　十四～十五面
青少年・ひと粒　十六面

## じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね！」という意味。

クリスマスと新年おめでとうございます。教皇フランシスコが来られて二か月。私の十一月二十四日を思い返してみました。

私はあの日、パパ様のお見送りをするために広島空港にいました。そして、一緒にお見送りする方々と滑走路の中でパパ様の到着を待ちました。その時、私の手には広島市立広島工業高校の生徒さんが世界平和記念聖堂の屋根材だった銅板を使って製作された「銅板折り鶴」がありました。折り鶴には、「広島の高校生として平和への祈りをこめて鶴を作りました。世界から戦争のない・核兵器のない世界が早く実現することをいのっています。」とメッセージが添えてありました。私がそのメッセージとともにパパ様に鶴をお渡しする・・・私でいいんでしょうか?手が震えて落としたらどうしよう!とそわそわと数日をすごしていました。（なんと信仰心がうすいわたし!）

平和公園での「平和のための集い」を終え、車からおりてこられたパパ様はにこやかでした。目の前に来られた時、私はすべてを包みこまれ「あなたをすべて許しますよ」といわれたような暖かな気持ちになりました。高校生のメッセージをお伝えし、折り鶴をお渡ししたとき、とてもうれしそうに「Grazie（ありがとう）」といってくださいました。

教皇フランシスコの訪日が決まってからの数ヶ月、準備してくださった方々、そしてこのような機会を与えていただいたことに感謝します。ありがとうございました。パパ様のメッセージの最後にあったように、私たちひとりひとりが主の平和の道具となり、そして主の平和を響かせるものとなって、平和の使徒として歩んでいけますように。（平和の使徒推進本部　伊藤　加恵）

力強いメッセージを世界に向けて発信されました。その中で、「核兵器のない世界が可能であり必要であるという確信をもって、政治をつかさどる皆さんに……核兵器は、今日の国際的また国家の安全保障への脅威に関してわたしたちを守ってくれるものではない、そう心に刻んでください」と訴えました。この教皇メッセージに促されて、日本の司教団は、二〇一九年十二月十二日付で、内閣総理大臣宛てに、「核兵器禁止条約への署名および批准を要請いたします」（カトリック中央協議会のホームページ参照）という手紙を届けました。

**②日本の教会では、毎年、九月を「環境月間」とする**

教皇フランシスコは、世界の環境問題を憂慮し、祈りと行動をもって被造物を守るため、二〇一六年から毎年九月一日（日本の教会では九月第一日曜日）を「被造物を大切にする世界祈願日」に制定しました。それは、「被造物の管理人となるという自らの召命を再確認し、すばらしい作品の管理をわたしたちに託してくださったことを神に感謝し、被造物を守るために助けてくださるよう神に願い、わたしたちが生きているこの世界に対して犯された罪へのゆるしを乞うのにふさわしい機会を、各々のキリスト者と共同体に」提供するためであると教皇は説明しています。これに合わせて、日本の教会は、九月全体を「環境月間」とすることにしました。

これら二つの事柄の他にも、日本の教会として取り組んでいくことが、二月中旬におこなわれる定例司教総会において、さらに続けて検討されることになっています。教皇フランシスコの訪問地になった広島教区としても、日本の教会の動きに合わせて新しい年を過ごして行くように心がけていきたいと思います。

**社会へのチャレンジ**

ご存じのように、広島教区では教区創立百周年（二〇二三年）に向けて、三年毎に教区の宣教司牧のテーマが設定されており、二〇二〇年四月から二〇二三年三月まで、「社会へのチャレンジ」という目標が掲げられています。また、一年毎に「いのち」「環境」「平和」というサブ・テーマも設定されています。それぞれの小教区や各共同体（修道院、カトリック校、活動グループなど）においても、これらのテーマを意識しながら、新年度の活動をおこなっていただければ幸いです。ここでは、教区のレベルで、現在、予定されていることを紹介したいと思います。

**「国際パックス・クリスティ」の世界大会（五月）**

「キリストの平和」（パックス・クリスティ）を世界に浸透させていくために設立された、教皇庁公認のNGO団体である「国際パックス・クリスティ」の大会が、被爆（終戦）七十五周年の二〇二〇年に合わせて、広島教区のカテドラル世界平和記念聖堂を会場に、五月十八日（月）～二十三日（土）に開催される予定です。この「国際パックス・クリスティ」の世界大会が、実り豊かなものとなりますように、広島教区としても支援していきたいと思います。

**「教区代表者会議」（十一月）**

広島教区では十一月二十三日に、同じく世界平和記念聖堂を会場にして、教区代表者会議が開催される予定です。①これまでの教区の歩みを振り返り、②百周年のあり方（祝い方）を考え、③百周年後の教区の目標や優先課題などを話し合うことを目的としています。すでに昨年からアンケート調査などを通して、その準備が始められていますが、この教区代表者会議が、教区民の意思を反映するものとなるため、準備段階からの皆さんのご協力をよろしくお願いします。

この他にも、神様の導きと皆さんのご支援を仰ぎながら、広島教区としても、教皇フランシスコの訪日・来広を受けて、皆さんと一緒に、社会への奉仕となるチャレンジを展開して行ければと願っています。

## 教区の動き
### 平和の使徒推進本部

**【二〇一九年度（第二回）広島司教区宣教司牧評議会開催】**

去る十二月十四日（土）、二〇一九年度第二回広島司教区宣教司牧評議会（以下、教区宣司評）が、広島カトリック会館多目的ホールで開催され、白浜司教、司祭、修道者、信徒（オブザーバー参加含む）の二十八人が出席した。

教区宣司評は、白浜司教の挨拶「皆さん、師走の忙しい中、ご出席いただき、感謝です。三十八年ぶりとなる教皇訪日が無事に終わり、日本の教会は大きな恵みを頂きました。その恵みを、今後の教区や小教区の宣教司牧に活かしていく行動へと向かう必要があります。特に、教皇が被爆地の長崎と広島で発信された核

兵器廃絶と平和のメッセージをよく味わい、少しでも今後の平和活動へと結び付けていくことができますように。この歴史的な出来事を神様に感謝しながら、これからの教区のあゆみの上に、更なる神様の導きを願い、今日の会議を進めて行きましょう。」に続き、祈りと共に始まった。

教区宣司評は、まず次のことについて報告があった。

「教区の優先課題として、①青少年育成委員会②召命促進委員会③教区共通カテキズム作成委員会④津和野の証人列聖委員会の四つの委員会から」

「カテキスタ養成委員会から」

「百年誌編纂（へんさん）委員会から」

「平和行事実行委員会から」

「世界平和記念聖堂保存活用委員会から」

「一粒会から」

「Pax Christi International 世界大会について」

の報告に続き、各地区、協働体、各地区修道女連盟からの報告へと続いた。

教区宣教司牧評議会の様子
（広島カトリック会館多目的ホール）

議題はまず、「教皇来広の振り返り」と「今後の平和活動の取り組み」についての意見交換から始まった。

今後の平和活動の取り組みについては「平和アピール一九八一記念行事（二月開催）の今後について」

「司教団の動きについて」

「二〇二〇被爆七十五周年平和行事について」の意見交換をおこなった。

続いての議題、二〇二〇年度から三年間のテーマ「社会へのチャレンジ」の取り組みについては、今後、小教区レベル、地区レベル、教区レベルとしての具体的活動を推進していく予定とのこと。

次の議題、「二〇二〇広島教区代表者会議に向けて」については、代表者会議実行委員会からアンケートの集計、分析に関する参考資料の提示と解説があった。また、代表者の選出枠については、代表者会議実行委員会から本宣司評の中で提案された内容で進めることになった。実際の代表者の決定は来夏ごろの予定とのこと。

最後の議題は、平和の使徒推進本部から「旧約聖書の書き写しリレーの実施」に関する提案があり、『実施する』ことが決議された。なお、実施内容などについては今後、見直し検討する。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに四時間近い教区宣司評を閉会した。

なお、次回二〇二〇年度（第一回）教区宣司評は、六月十三日に開催される予定。

## 朴 根培（パク クンベ） 神学生　助祭叙階式

**日　時：2月11日（火・祝）10：30～**
**場　所：カトリック観音町教会**
広島市西区観音町 15-31　TEL 082-231-5547
**司　式：アレキシオ 白浜 満 司教**
**受階者：使徒ヨハネ 朴 根培 神学生（広島教区）**

## 三宅 神学生　助祭叙階式

**日　時：3月1日（日）14：00～**
**場　所：カトリック倉敷教会**
倉敷市昭和 2 丁目 1-62　TEL 086-422-0680
**司　式：アレキシオ 白浜 満 司教**
**受階者：パウロ 三宅 仁孝（まさのり） 神学生（広島教区）**

## 久保助祭　司祭叙階式
## アルベルト 助祭　司祭叙階式

**日　時：3月20日（金・祝）13：30～**
**場　所：世界平和記念聖堂**
**カトリック幟町教会**
広島市中区幟町 4-42　TEL 082-221-6017
**司　式：アレキシオ 白浜 満 司教**
**受階者：ヨセフ 久保 裕己（ゆうき） 助祭（広島教区）**
**ジャルト アルベルト助祭（淳心会）**

## 聖書通読・写経・教会巡礼キャンペーン完了者紹介

聖書通読を完了された方
第0005号大鴻要子（廿日市教会）　第0006号花田晴美（向原教会）
第0008号柳原久美子（廿日市教会）第0009号熊谷美登里（廿日市教会）

写経を完了された方
第0005号花田晴美（向原教会）　第0006号鈗内（かんなうち）恵子（廿日市教会）

教会巡礼を完了された方
第0040号東晴美（幟町教会）

通読・写経・教会巡礼キャンペーンに皆さんもご参加ください。

# 「核なき世界」実現へ努力を
## フランシスコ教皇　来広
## 11/24

教皇フランシスコ（11月24日「平和のための集い」平和記念公園）©CBCJ

昨年十一月二十三日から二十六日にかけて教皇フランシスコが来日された。滞在中に長崎、広島、東京での行事をこなされるという多忙な日程であったが、やさしい笑顔とユーモアを交えつつ、各地でいのちと平和の大切さを訴えられたメッセージは、世代や国籍を超えて人々の心を打ち、皆を新たな決意へと導いた。

特に広島では、諸宗教や被爆者の代表とともに原爆犠牲者のために祈りを捧げられ、戦争のために原子力を使用することは犯罪であり、核兵器の保有も倫理に反していると明言された。そして、平和な世界をつくるためには、広島での出来事を記憶し伝えていく使命があることを訴えられた。「平和の使徒となろう」という広島教区固有の召命を改めて強く心に留めた方も多いのではないか。ここでは、それぞれの場で関わった方々の声を集めてみた。

### ありがとう、パパ様！

山口カルメル会
Sr. 高園泰子

夕暮れが迫る広島の平和公園、夕日に照らされた原爆ドームを背景に、ステージの中央にパパ様のための白い椅子が置かれ、少し離れたところに被爆者代表の二十一人のための椅子が用意されていました。被爆者代表の一人に選ばれたシスター長とパパ様の到着をお待ちする間、静かな音楽が流れる中、原爆で亡くなられたシスター長のご両親、姉妹、そして苦しみの中に亡くなられた無数の方々を思い、彼らの列聖式のようだと思いながら、祈っていました。

パパ様はご到着後、記帳、献花、点火の後、ステージ下の諸宗教の方々（仏教、神道、イスラム、ユダヤなど）へ赴かれ、一人一人に挨拶をされました。そして被爆者の列に向かわれ、シスター長の所へ来られたので、用意していたカードをお見せしました。カードはスペイン語で「私の両親と姉妹は原爆で亡くなりました。私はとても苦しみました。核のない世界の平和のためにたくさん祈っています。日本中のカルメリットたちはパパ様をとても愛し、いつも祈っています。」と書かれていました。パパ様は慈しみ深い眼差しでシスター長に手を差し伸べ、頭を包み込み、なでられ祝福されました。（壇の下で心を合わせて祈っていた共同体は、後日ユーチューブでシスター長の感激のお顔を間近に見ることができ、あらためて大きな喜びに包まれました。）私はシスター長の背後から、準備してきた『原爆体験記』のスペイン語版を差し出しました。パパ様は表題

右、シスター長と教皇フランシスコ

をご覧になり、慈しみ深い眼差しで私を見つめ、手を差し伸べられました。一番印象に残ったのは、カードにかかれている文字を一つも逃さず、冊子の表紙も注意深くごらんになる、その眼差しでした。世界中の苦しむ人、見捨てられた人を一人も逃さず見つめる眼がそこにありました。

平和への道が閉ざされているこの世界、為政者たちに平和を訴える、一言一言がパパ様の痛ましい心を感じさせるものでした。パパ様のこの痛みをともに傷みながら平和を祈っていきたいと思いました。

パパ様が退場される時、お隣の被爆者の男性が「ありがとう！ありがとう！」と繰り返し、繰り返し叫んでおられました。私も触発されて「ありがとう、パパ様！ありがとう、パパ様！」と叫び続けました。

この奇跡のような出来事の実現のために、祈り協力してくださった司教様、そして神に感謝いたします。

## フランシスコ教皇様と握手の瞬間

観音町教会　坂井　恒

右、坂井さんと教皇フランシスコ

当日、私は教会推薦の被爆者の一員として参列の栄にあずかりました。

フランシスコ教皇様は二十一名の被爆者代表一人一人とにこやかに握手を交わされました。私との握手のとき教皇様との会話は次のようなものでした。教皇様がにこやかな笑顔で手を差し伸べて近づいて来られました。私は「教皇様ようこそ広島においでくださりありがとうございます。お体を大切にされ、平和のためにがんばってください」と話しかけました。すると教皇様は「ありがとう。アルゼンチンの昔からのことわざで〝悪い人間はなかなか死なない〟という言葉があります。私はそのことわざの通り長く生きますよ」と微笑みながら言われたので通訳の神父さんと三人で大笑いしました。

今般の過密スケジュールに加え、日頃のバチカンでの教皇様の公務を思うにつけ、健康にご留意いただきたいとの思いから出た言葉でしたが、教皇様は私の思いを察してくださったのかユーモア溢れる言葉で返してくださいました。

## 宗教者の担う責任の重さ

広島市キリスト教会連盟会長
日本基督教団広島東部教会
月下美孝（つきしたよしたか）牧師

「平和のための集い」に被爆者と諸宗教の代表者が招かれました。今回教皇がどのようなメッセージを発表されるのか関心をもって参列しました。被爆者は「自分たちが体験したことを繰り返させてはならない」と核兵器廃絶を訴えてきました。面会の時、被爆者であることも伝えました。教皇の「平和のメッセージ」は、被爆者の願いを十分に受け止めたもので、真理と正義をもって築く真の平和は非武装の平和以外にありえない。歴史から学ぶことの大切さを訴え、記憶し、共に歩み、守ること、この三つは倫理的命令であり平和となる道を切り開く力があります。と話されました。メッセージを聞いた者は、被爆の実相を伝え、和解と平和の道具となる責任があります。特に宗教者の担う責任の重さを感じました。「いのち」を大切に、被爆者として今後も核なき世界の実現をめざし、核兵器の非人道性を訴えていきたいと思います。教皇より大きな励ましと勇気をいただきました。

諸宗教代表者方に挨拶を交わす教皇フランシスコ

## 「いま死んでもいい」と思うほどの恵み

津和野・益田・浜田教会
大西勇史　神父

広島・平和記念公園で行われた「平和のための集い」にて「被爆者のみなさんをお世話する係」を仰せつかり、当日は被爆者席の後ろから教皇さまのお姿を拝見する事が出来ました。

教皇様が足をひきずりながら歩かれるお姿や、被爆者の方お一人お一人に声をかけ手を握られるお姿に涙が溢れました。被爆者の方々も「あの教皇さまのお姿を見ていたら、足が痛いとか、苦しいとか、辛いなんて言っていられない。」と仰られていました。「もうこれで、思い残すことはない。いま死んでもいい」と仰られる方もいて、あわてて「いまは、やめてね」と言ったほどです。

教皇来広の恵みをいただき「励まされたものとして」、あの教皇様と同じように小さくされた方、苦しみの中をなんとか生きている方々に寄り添って生きていきたいと思います。

## 大きな喜びと感謝

東広島教会　長坂　格（いたる）

今回、広島平和記念公園での平和のための集いに参列できたことは、教皇来日を心待ちにしていた私にとって大変嬉しく、とても幸運なことでした。教皇ご到着直前の張りつめたような時間、献花の際の慰霊碑の前での長く深い祈り、核廃絶への力強いメッセージ「平和は単に戦争がないことではなく、たえず建設されるべきもの」など心に刻まれた言葉の数々は、二週間がたった今でも昨日のことのように思い出されます。また、母と妻、子ども達、そして教会の大切な友人と一緒に、平和のための集いに参列できたことにも感謝しています。フィリピンやブラジルなど様々な国出身の方々、そして世代の異なる方々と共に、教皇をお迎えしたこの集いから、教会や私達の社会のこれからのあり方について、具体的なイメージを得ることができたように思います。集いに参加した子ども達や若い方達は、この集いを、将来、どのように想起するのでしょうか。彼らのこの集いの記憶が、今はまだ見えない、色々なことにつながっていくことも楽しみです。

祈りをささげる教皇フランシスコ　平和記念公園

## 私たちはすべての生命を守ります！

呉教会　森岡ベリンダ

フランシスコ教皇が無事に広島を訪れたことに心から感謝しています。パパ様が現れたとき、みんなぞくぞくして興奮し、胸は高鳴り、喜びで涙している人もいました。政府や国民のすべてを一つにするために、様々な宗教の人を招待し、お互いに信頼し合って集まれたことは喜びです。パパ様は、すべての宗教が一緒にいることを可能にしたので、宗教や国籍を超えて、みんなで死者のために祈ることができました。そのことは一九四五年のできごとが再び起こるのを防ぎます。そして、今の時代の若者は原爆の地獄のような恐ろしさを知り、次の世代に伝えていかなくてはなりません。

パパ様がまた広島に来てくれることがあるとしたら、今度はここでミサをしてほしい。平和公園に入ることができなかった多くの人が悲しんでいます。

（スピーチが日本語訳だけだったので）私たちには理解できなかったけど、パパ様が話している間、感謝の気持ちでいっぱいでした。

人類にとっての大切なメッセージをありがとう。

私たちはすべての生命を守ります！

平和記念公園　©CBCJ

## 「母からの思い」

札幌教区・名寄教会　大平眞理子

一九八一年二月二十六日、ヨハネ・パウロ二世教皇様が長崎を訪問されました。この時亡くなった母は六十五歳、長崎での教皇ミサに与りました。三十八年後の二〇一九年十一月二十四日、フランシスコ教皇様が広島を訪問されました。六十七歳の私と六十五歳の弟が幸運にも抽選に当たり「平和のための集い」に参加致しました。パパ様の一挙一動に手を合わせ、感動と感謝のひと時を過ごしました。時と場所は違えども、親子がパパ様にお会いできた事は、偶然ではなく必然だったと思います。母の天国からの思いが、私たちの背中を押してくれました。原爆ドーム、平和記念資料館を訪れ、人間の愚かさを痛感させられました。パパ様の平和メッセージの中で心に響いた言葉「平和の君である主よ来てください。私たちをあなたの平和の道具、

あなたの平和を響かせるものとしてください！」

## 「教皇様に会えた日」

三篠教会
木村駿作（小五）

ぼくは、教皇様に花束をわたすお仕事でした。空港に来て、たくさんの人が集まっているのを見て思っていたより大変なことだと思い、きんちょうしてきました。教皇様は、テレビで見たよりも本物のほうがとてもやさしそうでした。生の声を聞けてうれしかったです。おじいちゃんもおばあちゃんもよろこんでくれました。

学校の先生や友達にすごいね、えらかったね、と言われました。教皇様にもらったロザリオを大切にして世界から核兵器がなくなるように、平和学習をがんばります。教皇様に会わせてくれてありがとうございました。

ぼくは、この感動を一生忘れません。

教皇フランシスコに花束をわたす大本さんと木村くん　©CBCJ

## 「まぼろし」

祇園教会
大本心乃美（小六）

パパ様に花束をわたす、と聞かされた時は、私にこんな大役が務まるのかととても不安になりました。でも、まかせてもらえたからには全力でやろうと思いました。

教皇を出迎える備後協働体の信者（広島空港）　©CBCJ

飛行機がとう着して、タラップからパパ様が降りて来られる時、足が辛そうだったので、助けに行きたかったけど、動いてはいけないと思って待っていました。花束をわたす時は、頭が真っ白になりましたが、練習した「ビェンベニード　パーパ。」（ようこそ　パパ様）と言えました。何かを言われた後に日本語で「ありがとう」と言われ、ロザリオをいただきました。それ以外の言葉はわからなかったけど、優しそうなお顔で笑顔がかがやいていました。テレビの中の方に会えて、夢のようでした。

「ぼくも会いたかった」と言っていた弟にもどんな方か教えられて良かったです。インタビューは恥ずかしかったけど、「まぼろし」の方に会えたことは一生忘れません。

教皇を出迎える
深堀神父（左）、服部神父（右）（広島空港）

## 「無言の内での出会い」

広島司教館
深堀升治（しょうじ）神父

広島の地に到着した航空機のタラップに向けて紅の絨毯がのびて行き、教皇様がただ一人ゆっくりとおりてこられ、その一歩一歩が気になる思いがしましたが、子供達から花束を受け取られた際の笑顔の印象が心に残り、白浜司教様に続き私自身にも握手と紅の小箱の記念品を手渡して下さいました。

三十八年前のヨハネ・パウロ二世来広にもまして、平和アピールはもっと具体的で単に世の政治的責任者への領域を超えて、くりかえし読みなおすと感じることが浮き上がってきます。それは核兵器をもっている国とか、その使用権限をもつ人々へのメッセージに留まらず、人を傷つけることができる私達一人一人にも心からの訴えとして感じられます。教皇様自身の自戒の念を核として人として平和を守る為にどうあるべきかの声と聞こえます。私は核兵器はもってないから通用しないのと！！

## 「忘れがたい経験」

ノートルダム清心女子大学
キリスト教文化研究所
古山聡子（としこ）

広島「平和のための集い」に、私たちは登壇者のアテンドという役割で参加させていただきました。ノートルダム清心女子大学学長の原田神父様の呼び掛けに集まった学生と大学・附属小学校・附属幼稚園の教職員の総勢四十名が岡山からバスで広島へ向かいました。

不慣れな会場ではありましたが、お手伝いをさせていた

だけることに感謝し、心を込めて、精一杯のおもてなしを心掛けました。さまざまな宗教の代表者の方が集まり、宗教の壁を越えて、教皇様と共に平和の祈りを捧げられる姿に感動し、この場に自分がいることが夢のようでした。アテンドさせていただいた壇上の被爆者の方一人ひとりに優しく語りかけられる教皇様、そして教皇様からの抱擁に涙する被爆者の方、漆黒の闇の中でその場所だけが光に浮かび上がり、感動で目頭が熱くなりました。

各自の分担場所でのお手伝いではありましたが、皆が一様に、体の奥底にまで染み入る平和の鐘の音を聴きながら、教皇様と心を一つにして祈りをささげたあの静かで厳かな時間は、二度とないであろう忘れがたい経験として私たち一人ひとりの心に深く刻まれました。

## 「平和を響かせるものとしてください」

広島信望愛学園　飯田文子

平和記念公園で行われた「平和のための集い」のボランティアとして、ノートルダム清心高校・大学、エリザベト音楽大学の学生をはじめ、広島地区のベトナム、フィリピンそして日本の有志の方々総勢三百五十名の皆さんが、白いスタッフジャンバーに袖を通しました。どなたもフランシスコ教皇のために共に働ける喜び、白浜司教様のお役に立てる喜びを胸に、笑顔で長時間それぞれの与えられた任務を果たしました。今まで同じ教会のメンバーであることも知らなかった仲間に声をかけ、集いを通して教会の仲間の繋がりが深まった、との声も聞きました。神様はこのようにして私たちの中に働いてくださっておられ、この集いにボランティアとして過ごすことができた喜びに、感謝と恵みの内にそれぞれの場所に帰っていきました。「平和の君である主よ・・・わたしたちをあなたの平和の道具、あなたの平和を響かせるものとしてください」と広島の地でメッセージを残された教皇の言葉を、これからも各々与えられた場所で活かし活動を続けることが大事な使命だと感じています。

「平和のための集い」ボランティアスタッフ　©CBCJ

## 教皇様のご訪問に感謝して

ノートルダム清心中・高等学校教諭　上垣内（かみがいち）智子

教皇様の訪日では、白浜司教様をはじめ教区の皆様に大変お世話になり、ありがとうございました。「平和のための集い」の受付と会場整理のボランティアで、本校の生徒が参加させていただきました。百二十人というボランティア希望者を受け入れていただき、感謝申しあげます。はじめてボランティアをする生徒も多く、主体的に動くことの大切さなど、多くのことを学ばせていただきました。また、教皇様のお言葉をいただき、生徒それぞれが今後に生かしていこうと考えております。生徒の感想をご紹介いたします。

「今回の経験は、平和について考える機会になりました。教皇様のお話を聞いて、行動すること、声を上げることが大切だとわかりました。積極的に行動していきたいです。」「平和を願う気持ちは世界共通だとわかりました。教皇様のスピーチで、声をあげることが大切だとあったので、平和な世界を実現するために、私たちが行動しなければ、と思いました。」「平和を主体的に実現できるような人になりたいと思いました。」教皇様の思いを受けて、今後どのように生かしていくのか、問われているように思います。

会場案内をする清心高校ボランティア

## パブリックビューイング講話 ～「ラウダート・シ」の心

宇部教会　片柳弘史神父

パブリックビューイングに集まった皆さんのために、使徒的勧告『福音の喜び』から、回勅『ラウダート・シ』まで、教皇様が一貫して訴えておられる「被造物のうちに神を見る」ことの大切さについてお話しさせて頂きました。神様が造られたもの、木々や草花、山や海の前に立ち止まり、その美しさに驚嘆する感覚、精いっぱいに生きる人間のいのちの前に立ち止まり、その神秘に驚嘆する心を取り戻すことこそ、「いのちを守る」ことの出発点だと、教皇様は一貫して訴えて来られたのです。被造物の前に立ち止まり、その神秘的なまでの美しさに心を震わせるとき、わたしたちは被造物を通して神と出会います。そのとき、わたしたちの心に、「この被造物、この木々や草花、この傷ついた人を、守らずにはいられない」という気持ちが湧き上がってくるので

す。その心は、世界の平和にもつながります。すべてのいのちが守られている世界こそが、平和な世界だからです。こうした教皇様の思いと重ねながら、平和メッセージを味わえればと思います。

## パブリックビューイングで教皇様と会う

下松教会　藤屋紀子

耐震工事が終了し、暖房設備も整った世界平和記念聖堂の祭壇正面に大きなスクリーンが用意されていた。白浜司教様は、「皆様が席を譲ってくださったお蔭で平和公園に多くの人々が参加できました。ありがとう。」と言われ、教皇様をお迎えに空港へ行かれた。

パブリックビューイングの様子（世界平和記念聖堂）©CBCJ

教皇様が映し出されると、拍手が起こり、長崎での疲れを感じさせない笑顔、慈しみに溢れたお姿に涙する人もいた。臨場感豊かな画面からその存在感に圧倒され、まるで側にいるような気分で見入った。

慰霊碑に献花後、沈黙の中で静かに祈られた。とても長い祈りだったと感じた。漆黒の夜空にポツンと光る満月が印象的だった。

被爆者の方々の言葉を聞き逃すまいと耳を傾ける姿、シスターに優しく触れる姿、話す人の目を見つめる姿。一挙一動に真摯な態度が感じられ、涙があふれた。

平和メッセージの中で、私たちを平和の道具、平和を響かせるものとなるよう促された。聖堂内は静まり、力強いメッセージに聞き入った。教皇様が平和公園を後にされても、しばらくは誰も席を立たず、画面を見つめ、思いを胸に秘め、聖堂をあとにした。

## 「教皇来広準備委員会」の看板を背負って

平和の使徒推進本部
Sr.古屋敷一葉（ふるやしきかずよ）

振り返ると、第一回目の準備委員会は三月のことであった。そこからしばらくは情報がなく、公式発表があるらしいとバタバタし始めた七月。先遣隊が視察に来られ、公式発表はいつかと首を長くして待ち続けて夏が過ぎ、九月半ばに発表がなされると一気に加速。毎週のように会議が開かれた。初めて行政や広告代理店と一緒に仕事をし、戸惑うこともしばしば。中央と現場の間に挟まれて苦しむこともしばしば。メディアなどの対応にも追われる。極秘事項もあり、何を誰に伝えるかを考えながら、少しずつガス抜き。多くの業務がのしかかってきたため、本部事務局やボランティアの方々にお世話になり、目を回したまま本番へ。

当日は雨の予報も祈りが届いたのか、午後から晴れ間ものぞいた。日が暮れ、静寂のうちに教皇到着。そこからは皆さんご存知の通り。

よくこの少ない人数で対応したものだ。そのため行き届かない点も多数あったが、学ぶことが多かった。ひとつのイベントの裏で働く人の多さ。皆が見つめているのは一人であるが、その一人が動くためにどれだけの人が準備をしているか。ボランティアに応募した人の多さにも感激した。これは普段教会のために陰で働く人々の存在を思い出すことにつながった。感謝の気持ちでいっぱいである。それから被爆者の方々の存在。この人もそうだったのか、と初めて知ることも。教皇がその一人ひとりと語られたことにより、力を得ている姿を見た。信徒の方もそうでない方も。広島から平和を発信する使命を肝に銘じて、この方々のお話を改めて伺いたいと思った。そして、やはり教皇に対する社会の期待の大きさ。取材もさることながら、市民の方々からの声も多々入った。当日までは苦情もあったが、終わると感謝の電話や手紙が寄せられた。多くの人が教皇の言動に感銘を受けたことがわかった。教会の倫理的責任も重大だと悟った。

メッセージを事前に読むことのできる立場にあったが、やはり、あの場で読まれた瞬間にその意味が伝わってきた。短い時間ではあっても広島を訪れる必要性があったことをゆっくりと述べられた。教皇が広島の私たちに託されたメッセージを、単なる「発せられることば」で終わらせてはならないだろう。準備委員会はこれでお終いではなく、これからは「教皇メッセージ実践推進委員会」として歩まねばならないのではないかと感じている。

## 教皇の記念品製作での思い

広島市立広島工業高等学校
機械科三年　佐藤　匠（たくみ）

私は今回、教皇来広の記念品として世界平和記念聖堂の屋根材を利用した「銅板折り鶴」を製作しました。最初は

銅板折り鶴

銅板折り鶴に使われた世界平和記念聖堂の屋根

製作できるという喜びがあった反面、失敗が許されない事や私が製作したものでよいのかなど、戸惑いも多くありました。しかし、私の考える「平和のあり方」が、祈りを込めて製作することで、戸惑いも消え、綺麗で思いの詰まった「銅板折り鶴」を製作することができました。教皇のスピーチの中で「核兵器の保有は倫理に反する」と言う言葉は、教皇の思いと私の製作した「銅板折り鶴」を繋げた瞬間でした。この製作の困難さが達成感に変わりました。今回、このような機会を作っていただいたカトリック広島司教区の方や関係者の方に、この場を借りてお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

折り鶴を制作する
広島市立広島工業高等学校のメンバー

## 歓迎の花束を作製依頼

教区本部事務局

教皇歓迎の花束

「フランシスコなら話は別だけど」歓迎の花束を作製した土職人・登島啓右（としまけいすけ）さん（観音町教会）は、現在、生花の取り扱いはないと言った直後に冗談っぽくそう答えた。正にそれだと告げると沈黙の後、受諾。暁の星幼稚園の先生に連れられて行った空港で、色ぬりした手製のバチカン国旗を振ったのは三十八年前。まさか二度目の接点があるとは夢にも思わなかったらしい。

それからは世界中の花束を受け取る教皇映像を検索。キリスト教における色の持つ意味を改めて調べ、「ちいさいひとのために」生きる教皇のために小さな花をちりばめた花束が完成した。教皇を出迎えた後、母に手を引かれ訪れたすし詰め状態の大バチカン展で人生初の迷子になった男の子は、迷うことなく作りあげた。マリア様への青も忘れなかった。

事の重大さがわかる大人になった今、その重責のストレスからか、人生初の通風を発症。パパ様がビールを控えるようにしてくれたと笑った。三度目の接点がきっとあると期待している。

## 私たちにできることは「祈り」です

小野田老人ホーム・純心聖母会　Sr.赤窄千香子

小野田老人ホームでは毎年「聖母月」と「ロザリオの月」に、聖堂に集いロザリオの祈りをする習慣があります。放送でお祈りの呼びかけをする人やローソクに火を点けて準備する人、お祈りの先唱やそれを手伝う人など、カトリック信徒ではない人もできることで参加してくださり、このホームならではのロザリオの祈りを紡いでいます。昨年五月、白浜司教様からの呼びかけに応えて、「教皇様の訪日と世界平和のために」との意向を掲げると、皆さんの祈りの声にも力が入りました。こうして、半年にわたってお捧げしたたくさんの祈りを、最後の塗り絵に仕上げてくださったのは、おもに介護の必要な利用者の皆さんでした。

教皇様に直接お目にかかることも、教区の行事に参加することもできませんでしたが、私たちは教皇様のご意向に心を合わせ、これからも皆さまと一緒に祈ってまいります。

小野田老人ホームの皆様

## 長崎　教皇様のミサへの旅

岡山教会　宮武希久巳

私たち岡山教会からのバス参加者は最年長九十九歳、最年少二十八歳でした。神様のお守りでお恵みに与り何事もなく旅を終えられた事に感謝しています。

日曜日の夜明け前二時半に岡山教会に集まり、午前三時に出発。長崎には午前十一時頃に到着し、セキュリティーチェックを受けて、正午頃会場に入りました。シートに座ってからごミサが始まるまでは、雨の予定が晴れたので雨具を脱いだり、モニターに映る教皇様の映像に感激して涙ぐんだりと忙しくな時が過

長崎ビッグNスタジアムの様子　©CBCJ

ぎました。

気持ちを落ち着かせる間もなく、教皇様が入って来られた時は、思わず歓声を上げました。私の教皇様のイメージは、その日雨空から晴れて出てきた太陽の光と重なっています。「なんと温かで、周りを熱くさせるんだろう」と。

ごミサの説教や来日テーマの「PROTECT ALL LIFE」のはいろんな形で皆さんご存知だと思います。私は岡山に帰り、日々の生活のなかで沈黙か嘲笑か（信仰）宣言かと頭のなかで思い巡らせています。そしていのちを守るための選びをスタートしたいと思っています。

## 長崎ミサに参加して

幟町教会・ベトナム共同体　代表者　山口トゥイ

私たちベトナム共同体にとって、パパ様のミサに授かるチャンスは、一生に一度きりかもしれません。ベトナムの国内事情を考えると、偶然に日本に滞在していた為に巡り会った機会です。数カ月前、パパ様の長崎ミサが決まり参加希望を聞いたところ、一晩で大型バス二台分の希望者が集まりました。

当日、朝早く幟町教会をバスで出発、長崎のミサ会場に到着すると、大変大勢の人々。しかし、みんな整然としていながら、みんなの顔が喜びでいっぱい。神聖な気持ち。初めて経験した雰囲気！

会場にパパ様がお越しになる直前、それまで降っていた雨は止み、厚い雨雲の間から日差しが差込み始め、あっと言う間に雨雲の姿が見えなくなりました。まるでマリア様が現れるファティマイベントのようです。

パパ様が会場にお越しになると、「VIVA PAPA VIVA PAPA」の掛け声。パパ様は車で会場を回りながら、時折近くにいる赤ちゃんにキス、祝福！パパ様のお顔は会場のバックスクリーンにも映し出され、会場の視線はパパ様に集中！パパ様の笑顔、何だかお父さんみたい！優しい、言葉にならない、感動！

長崎のミサに参加したベトナム共同体

ミサが始まると会場の全員が集中、会場全体が神に感謝の気持ちで包まれます。

スペイン語で行われた為、正直、一文一文の意味はわかりません。長くないけど、不思議に心に残る、昔、お父さんから教えてもらったみたいな感じ。

夜おそく広島に戻ってくると、みんなが満たされた気持ち。心の中に新しい風、新しいピリオド。八十一歳のパパ様の笑顔を拝見して、私達ももっと頑張らなくてはと思い起こされました。

パパ様がお話しされた、平和。そして、誰のために生きているのか？この二つの事に心を止めて生きていきたいと思います。

今回、幸運にもミサに参列できた人、又事情があって広島に残ってパパ様の来日を喜んだ人も教区の皆様のご協力と今回の機会に恵まれた事に感謝の気持ちで一杯です。

## 「青年との集い」に参加して

幟町教会　廣野満貴

十一月二十五日、関口教会で行われた「青年との集い」に参加しました。

「青年との集い」は七月に行われた会議から始まりました。会議の議題は教皇様と青年で何がしたいかというものでした。会議はよい分かち合いになり、その議題を持ち帰り各教区で色々な行事を開きました。広島教区では定期的に集まり、教皇様のことを学ぶ合宿や映画の観賞、アルペ・ウォーキング等を開きました。

「青年との集い」当日は教皇様が会場に来られる前に、今回のテーマに関わる命と向き合う青年の映像を見て教皇様が来られるのを待ちました。到着後、三人の代表者が教皇様に質問し教皇様がそれに対して応えるといった流れで進みました。

教皇様の生の声が聞こえるほど近くで見ることができました。教皇様は青年一人一人を見ているようで、あの場にいたみんなが一度は教皇様と目があったように感じたのではないでしょうか。ジョークを混ぜながら訴えかけてくるように話す教皇様の言葉をその場で感じて心に残すことができた事はいい経験になりました。

## 祝福のとき十一月二十五日「青年との集い」「教皇ミサ」に参加

宇部教会　中村実香子

『人を上から見て良いのは、倒れている人が立ち上がれるように手を差し伸べるときだけです』青年との集いで教皇様がおっしゃったこの言葉に、ハッとさせられました。人を上からの目線で見てはいないか？私のこの手は、本当に他者を助けるために差し伸べられているのか？来春から社会人となる今このと

中村ファミリー

き、少し立ち止まり自分に問うことの大切さを感じています。

この度は、多くのかたのお力添えによって家族五人で集いに参加することができました。集いの終わり頃、教皇様は車イスに乗る兄に歩み寄り、右手を握って額に手を当てて祝福を授けてくださいました。その様子を両親、姉と見つめながら、このひとときは祖父母の代から受け継いできた信仰があってこそ実現しているのだなと思いました。ほんの一分間ほどの中に何十年もの時の流れを見た気がしました。あの場で抱いた思い、家族で分かち合った大切な時間をずっと忘れないでいたいと思います。

## 「東京ドームパパ様ミサに参加して」

松江教会　蔵聖梛（せな）（小六）

僕は、教皇様のミサに、伯雲協働体（松江、出雲、米子三教会）三十数名と一緒に与りました。五万人の中の一人として、心一つになって祈りました。

教皇様が皆の前に登場される迄、長い時間待っていました。アリーナにパパモービレで登場された時には、皆の歓声がものすごく大きくバチカン旗も力一杯振っていました。

東京ドームのミサに参加した宇部教会の信徒

教皇様が僕達の前に来られた時、思わず近く迄駆け寄りました。

赤ちゃんに祝福される姿がとても素敵でした。

『一生の心の宝』になりました。

僕も世界の平和の為に祈ります。

## 「平和のための集い」に参列、登壇された被爆者の方々へのアンケートより（抜粋）

### ●ご自身が、教皇様へ言われたこと

「ありがとうございました。」これしかいえませんでした。心では、被爆で死ぬ筈なのに今まで生かされてきたのは、教皇様にお目にかかれる事と思いました。

### ●教皇様からのお言葉

三十八年前に、ヨハネ・パウロ二世は「戦争は人間のしわざです」とおっしゃり、今回教皇様は、戦争のための原子力使用を「犯罪以外の何物でもない。」とおっしゃり、このお言葉に私は「力」をいただきました。

### ●今回の集いに参加されて感じたこと

教皇様のメッセージを聞き、核を持つ理由などすべてあり得ないことを再認識しました。

初めから終わりまで、祈りの場にふさわしい静けさの中での式が良かったです。参加者全員が一体となり、被爆し亡くなられた方々の永遠の安息を願っての黙祷は大変良かったです。

新聞社三社とNHKのインタビューを受け、生まれて初めての体験をしました。

想像した以上のやさしい感じを受け、握手してもらい来てよかったと思いました。お帰りになられるときに、私たちのところに一度来られて、まるでお帰りの挨拶をするように会釈されたのに感激しました。

## 教皇フランシスコへ霊的な花束の目録を渡しました！

教皇フランシスコの来日来広に合わせて、広島教区で呼びかけていた霊的花束ですが、二〇一九年十一月二十四日教皇様が広島を離れるための飛行機搭乗前に、実物をお目にかけて、目録を平和の使徒推進本部事務局より、直接手渡ししました。

教皇様も実物をご覧になったとき、にこやかに「きれいだ！」とおっしゃっていました。

霊的花束に参加して頂いた皆様、ありがとうございました。

また、革細工の作業をしてくださった信者の方もありがとうございました。

| | |
|---|---|
| ロザリオの祈り | 87,432環 |
| ミサへの参加 | 14,063回 |
| 聖体訪問 | 11,114回 |
| 小さな犠牲 | 8,636回 |
| 愛の業 | 7,771回 |

霊的花束の目録

広島空港で霊的花束の目録と銅板折り鶴を教皇に渡すミカエル金神父と平和の使徒推進本部の伊藤さん↓

## 召命学校十代クラス
### 久保裕己助祭

二〇一九年九月十五日～十六日にかけて広島教区召命学校十代クラスが開催されました。今回は十三名の参加者、それにリーダーや司祭助祭の総勢二十四名で行われました。過去の予備神学校や召命学校ではカテケージス（要理）が中心となっていましたが、今回は「召命」そのものについて修道女や司祭の講話を聴き、共に考え、互いに分かち合い、今までの内容からは一歩ステップアップした内容になっていたと思います。

信徒としての召命、修道者としての召命、そして司祭の召命、召命には様々な形がありますが、キリストに倣う生き方と言う意味ではどの召命にも通じるものがあります。参加してくれた子ども達もそれぞれの形を模索しながら自分が召されている固有の召命を考える良い機会となったのではないでしょうか。また毎回参加してくれる子ども達や初めて参加してくれる子ども達、そんな参加者の子ども達の間にも自由な交わりの機会となりました。さらに、今回の召命学校十代クラスでは最終日が「教区の日」にあたっていたために参加者の子ども達に侍者をしてもらい、荘厳なミサをより近くで体験する事ができました。

現在、広島教区では「召命学校」という名前で「十代クラス」や「成人クラス」行っています。これは以前の「予備神学校」から名前を変え、年齢の枠を広げて行っているものです。「召命学校十代クラス」では教区全体で年二回、各地区で年二回の計四回、「成人クラス」では年一回の集いを計画しています。召命が少なくなっていると言われる昨今、私たちの教区では召命学校を通じて子どもたちの召命を見出す機会を作り続ける努力を惜しみません。実際に、「召命学校」を通じて幾人もの若者が修道者の道を希望し歩み始めていますし、司祭召命を目指し歩み始めた神学生や神学生候補者もいます。もちろん司祭や修道者の召命に限ったことではありませんが、子ども達が自らの歩む道を模索し、自らの力で歩み始める姿は非常に美しいものです。どうかこれからも信徒の皆様のご理解、ご支援をお願いします。更に、皆様の小教区にいる子ども達も参加させていただけますようお願いいたします。

→夕食の様子
↑会の初めのアイスブレーキング（自己紹介）

## JICaRM広島便り
### 山口フィリピン共同体
### Marities S. Iwamoto

私たちフィリピン人の多くは、勤労感謝の日、誕生日、クリスマス、新年等いろいろな日を祝います。

そしてそれぞれのお祝いの日にふさわしい人達例えば自分の家族、親戚、友人を招きます。ここ日本で生活をしている私たちフィリピン人は、仲間同士の交流のためと、また日本の方達や他の外国人の方達との交流を目的として広島からフィリピン人の神父様に来ていただき、毎月ミサを、捧げ分かち合いをしています。

私たちはいままで続けてきたこの交流の場を続けていきたいと思いますが、それは人々との交流だけでなく、私たちの主に感謝を捧げ、私たちの心身の健康と私たちを支えて下さっている人達との良い繋がりを継続していくためでもあります。

（和訳：藤本忠文さん）

Mostly, Filipino people celebrate occasions like ' Thanks Giving Day ', Birthday, Christmas, and New Year's Day.
We gather for the purpose of being with our families, relatives, friends and also with our co-Flipinos, especially those who live in Japan, to have a communication with each and every one of them ; as well as meeting people from native Japan and different countries.
We continue this Tradition, not only to gather, but also to give thanks to our Lord God for the Grace, health of the body and soul, and for making good deeds to help more people as well as prayers

Yamaguchi Filipino Community　Marities S. Iwamoto

# 地区便り

## 伯雲協働体

### ＊松江教会・信徒司祭館完成

二年程前から、再度取り組みをスタートさせた松江教会・信徒司祭館が昨年十月末に完成しました。

これもひとえに歴代の神父様、信徒会長、建設プロジェクトチームの方々により十数年にわたる長年の構想、ご努力の積み重ねが有り、その上に今回「祈りと共に、心一つに、完成に向け」のモットーの下に主任司祭始め全信徒が一丸となり取り組んだ「実り」と感謝しています。

今後は、松江教会のみならず伯雲協働体の「宣教の場、学びの場、交わりの場」として活躍する事を祈願し、神様始め、お祈りご協力で支えてくださった皆様に感謝致します。

松江教会　信徒司祭館

松江教会新信徒司祭館は、木造二階建て、二百二十平方メートルの広さです。最大のこだわりは、一階の集会室です。多くの信徒が一堂に集まれる様、可能な限り広く取り、ガラス戸を開けば外の聖堂前広場と一体となります。

そして、集会室と隣接の洗い場と二つのキッチン、更に、待望の「トイレ三箇所」です。

こだわりが沢山有りますが、外観のデザイン（写真左側の○と十字の並び）は、既存の聖堂窓のデザインを継承しています。

皆様のお越しをお待ちしています。

### ＊平和祈願ミサ ～永井隆博士をしのんで～

二〇一九年十一月二十三日（祝・土）、雲南市三刀屋文化会館アスパルにて平和祈願ミサが後藤正史神父主司式、パウロ尹・ミカエル金両神父共同司式で行われました。

永井博士の平和を希求する思いを伝えるため、出身地三刀屋町では一九五〇年に飯石如己の会が発足しました。一九八四年の第一回平和祈願ミサ以来継続的に、カトリック教会（伯雲協働体三教会）と如己の会共催で行政関係者も列席して行われてきました。これは一九九一年雲南市の平和賞作文（今年二十九回目）、二〇〇三年長崎如己の会、翌年韓国如己の会設立、また二〇〇五年雲南市都市宣言「平和を」につながる地道ながら重要な精神的役割を果たしてきました。

今年は建て直し工事中の記念館館長から永井博士のひととなりについて、ミカエル金神父から韓国如己の会の成り立ちについて話していただきました。「如己愛人」は今こそ世界で実現すべき神の御心であり、自分にできることからこの精神を伝えたいと決心しました。

## 海峡からの風 55

### 下関労働教育センターだより

大晦日、一年間を振り返りながら書いています。「どうして疑うのか、なぜ信じないのか」という主の励ましによりすがりながらの航海の一年だったように思います。心が疲弊しきった時に韓国でふと手にした本は、大きな助けになりました。韓国では有名なホン・ソンナム神父さんの『私は思ったよりも大丈夫な人間だ』でした。それは、自分自身をいたわることが大切だということを一貫して伝えてくれているメッセージでした。外見にはそうは見えないけれど、自分を責め、追い込んでしまう傾向がどこかにある自分にとって救いになるメッセージでした。

実はパパ様も同じことを言われています。二〇一九年の年初のメッセージの中に、自分に対するsweetness（優しさ、いたわり）の大切さが強調されていました。「他者に優しくするためには、まず自分自身に優しくしてください」と。いみじくも、九月にソウルで行われたイエズス会社会使徒職日韓合同会議で話をしてくれたチェジュ島のフランシスコ平和センター館長のキム・ソンファン神父さんも、教皇フランシスコの平和の思想というテーマの中で、それについて言及してくれました。チェジュ島で海軍基地反対の活動をする人たちは、鋭い正義の感覚というものを持っているけれども、ゆるし、あわれみという感覚は鈍い人たちが多い。そのために分裂や葛藤が活動する人たちの中に継続してある現実について話してくれました。だからこそ、あわれみの感覚を育てていかなければならない、という言葉に助けられました。

私たちは、社会活動に関わりながら、渦の中に巻き込まれ、傷も負っていきます。正義の感覚が自分自身をときに苦しめることもあります。そのとき、自分自身の限界を認めること、自己のありのままを受けとめてあげること、自分自身に憐みの眼ざしを向けること、sweetnessを自分にも向けてあげること、心の中にまず平和を広げることの大切さというメッセージが、目まぐるしく寄せてきた波風の奥にあったのだと、一年間を振り返って思います。

（中井 淳 神父）

## 広島地区

### ＊平和アピール1981記念行事、高田敏江さんによる朗読劇「夏の雲は忘れない」

高田敏江さん

ヒロシマ　ナガサキに落とされた原爆によって父母を亡くした子ども、子どもを亡くした両親の書き残した手記を女優、高田敏江さんが朗読されます。

日時：二月二十三日九時半のミサ後十一時から

場所：世界平和記念聖堂

内容：朗読劇とお話（高田敏江さん）音楽（ギター上垣内寿光さん）

## 岡山鳥取地区

### ＊パネル展と朗読劇

玉島教会では百二十周年を迎え、記念事業の一環として「浦上四番崩れ」のパネル展と朗読劇「津和野の証し人」の上演を行いました。

開催にあたりチラシを作成し皆で商店街の朝市で配布しました。

パネル展の様子

パネル展の期間は一週間、来場者には日本基督教団の信者さんが多く来てくれ熱心に見てくださいました。

朗読劇は上演にあたり四番崩れについての書籍を購入し本棚に四番崩れのコーナーを設けて理解を深めることにしました。各自で台詞の練習をして月に一度ミサ後に合わせ練習を重ねていきました。今回は日生「鶴島」についても触れられていました。

決して上手な朗読劇ではなくとも出演者、観客共に改めて「津和野の証し人」達の信仰をしっかり感じることが出来た恵みの時間でした。

### ＊玉島教会創立百二十周年記念ミサ

昨年十二月八日、玉島教会で創立百二十周年記念ミサ（白浜司教司式）が行われました。玉島教会で司牧をされていた淳心会や広島教区の司祭、教会に隣接された海星幼稚園の運営に携わっていたお告げのフランシスコ姉妹会のシスター方、信徒などが多く集いました。ミサ後、玉島教会聖歌隊の「コーリ・アンジェリチ」によるミニコンサートや海星幼稚園ホールでパーティが盛大に行われました。

記念ミサに集まった司祭修道者信徒

## 広島教区一粒会　二〇一九年度　委員総会のご報告

廣野　豊満

昨年十一月三日（日）世界平和記念聖堂において、白浜司教様、一粒会担当司祭、監事、常任委員、各小教区委員など三十三名が集まり一粒会総会が開催されました。新監事、新常任委員の紹介の後、出席者全員の自己紹介、各小教区の報告が和やかに行われました。

白浜司教の冒頭の挨拶では、各地からの参加者に対するねぎらいの言葉に続き、裏方で世話をしている人がいることに思いをはせることができる目を持つことの必要性を、花壇に咲くきれいな花を見て裏で世話をしている人のいることに気が付く目が大切だと話されました。

また、担当司祭の深堀神父の挨拶では、かつて十数年間司祭叙階がなかった時期がありました。それがこれから毎年のように叙階があることに感謝しています。現在は、横浜教区に次いで多くの神学生がいる状況ですが、これからもどしどし神学生が生まれてくるように新しい開拓をさらに進めてくださいとお話しされました。

議事では、二〇一七・二〇一八年度事業報告、二〇一八年度決算報告、監査報告、二〇一九年度事業計画、二〇一九年度予算計画が承認されました。事業計画として、一粒会献金方法の見直し、パンフレット作成配布（日本・ベトナム・英語・ポルトガル語）を検討、一粒会の必要性を信徒に理解していただくための分かりやすい資料作成について検討されました。

神学生養成について、今年度は、久保助祭と五人の神学生が養成対象者であること、神学校が東京神学校と福岡神学校に分かれることになり、広島は東京神学校に入ること、養成期間が六年間から七年半に延びることなどが報告されました。

会の最後には、製作途中の広島教区一粒会PR用ビデオ・神学校生活ビデオを見ていただきました。

# 青少年の活動

## みんなであるく

原爆投下の遺産は、目に見えるものだけではない。そこかしこにある。だけど、遺産は自ら主張することはない。生者が働きかけなければ、捉えられない。

長束黙想の家で、アルペ神父の伝記を読んだ。関東大震災・幟町・三篠・海外宣教と、幾重にも重なる聖霊の働きに驚いた。静かに眠った歴史的な資源が、今の礎になっていることに気付いた。

教皇様の来広がまだ未確定だった暑い頃、「幟町から長束まで歩いてみたい」と幟町教会所属のカテキスタ内海ひろゑさんに病室で相談した。「救護車も用意しよう」「歩くことなら言葉の壁も少ない」等、高齢化＆国際的な共同体を見据えて考えた。「信仰に関わる中身のイベントを」と、証言の音読・ふりがな付資料の用意を心がけた。各SNSの表示・投稿時間・言葉も工夫した。教皇来日に沸く報道各社が連絡をくれた。「イエス様も嫌なことを引き受けたんだ」と思えば、根はコミュ症な僕も取材対応ができた。そして、司祭・修道者・先輩信徒・若手信徒に助けられての開催に今秋延四十人の参加があった。

次は、桜の咲くころに再び「みんなであるく」予定です。昔、召命巡礼などで歩いた方も、ぜひご参加ください。信徒の皆さん、またサポートお願いします！

（幟町教会　竹田舞）

2019年11月9日　「みんなであるく」参加者　長束黙想の家での様子

## ひと粒〈103〉

### 「初登場」

玉野教会主任司祭
猪口大記神父

「ひと粒」欄、通常は新司祭や教区外から来た司祭が紹介されているコーナーなので、「猪口？ネタ切れで二周目か？」と思われた方、それです。その感覚です。いろんなところに顔を出しているため、新鮮さがなかったのでしょう。とっくに載っているものと誰もが勘違いをして忘れられたまま六年が経過した、実は「ひと粒」初登場の猪口です。

広島教区の東の果て、玉野で主任司祭をしております。三十八歳ですが、よく二十代三十代のベトナムから来た若者達に、「故郷のお父さんを思い出した」と言われます。ベトナムって結婚が早いんですね。お父さん達、若いんだなぁ。

さて、せっかく人口が六万人もいない小教区に派遣されたのですから、大工仕事や燻製作りに精を出しつつ、教会共同体作りに注力しています。そんな生活の言い訳ではありませんが、玉野の小教区では司祭が細々手を出さずとも司祭と連携を取った上で、自律的に動けるようになりました。司祭が常駐しなくとも、教会学校にせよ、日本語学校にせよ、きちんとその活動を継続し運営できることは、きっとこれから、今までよりももっと大切になると思います。

「教会は受肉の延長」なんて言いますが、キリストを受けてキリストを世にもたらす役割は教会の本質であり、「もう一人のキリスト」としての信者一人一人の役割でもあります。とりわけ、司祭にとっては大切な使命です。自らを告げ知らせるのではなく、自分は死んでキリストが残るような、そんな司祭になりたいものです。

## 風紋

教皇フランシスコの来日から早二カ月。一過性のイベントで終わらせるのではなく、「思い出し、ともに歩み、守ること」（二〇一九年十一月二十四日、平和記念公園でのスピーチより）を心に留め、和解と平和のために祈り、行動したい。（あ）